

令和2年度 第2回

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

日 時：令和3年2月24日（水）13:30～16:00

場 所：[埼玉] 関東地方環境事務所 会議室

[群馬] 群馬県庁 会議室

[栃木] ウェブ会議システム「Webex」

[福島] ウェブ会議システム「Webex」

次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 令和2年度の報告と令和3年度実施計画（案）

- －環境省
- －林野庁
- －群馬県
- －福島県
- －栃木県

(2) 地域別意見交換

- －群馬：さらなる捕獲強化に向けた課題と解決策について
- －栃木：1 観光地（湯元）でのシカ出没状況の共有と捕獲について考える
2 日光地域のシカ柵設置状況の情報共有
- －福島・新潟：被害軽減のために捕獲数をどう増やすか
(人員、予算に応じた捕獲場所の拡大、効率的対策の検討)

3. 閉会

【配布資料一覧】

○議事（1）

資料1－1 令和3年度実施計画（案）

資料1－2 環境省説明資料

資料1－3 栃木県説明資料

○議事（2）

資料2－1 栃木県意見交換会

資料2－2 群馬県意見交換会

資料3－3 福島・新潟県意見交換会

令和2年度 第2回 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 出席者名簿
令和3年2月24日(水)

所属	役職	氏名	会場
関東森林管理局 計画保全部保全課	野生鳥獣管理指導官	松坂 勝士	群馬(web)
	保護係長	糸永 亘児	群馬(web)
会津森林管理署南会津支署	総括森林整備官	高木 晃	福島(web)
	首席森林官(檜枝岐)	田部 大輔	福島(web)
日光森林管理署	地域林政調整官	泉田 利明	栃木(web)
	主任森林整備官	町田 次郎	栃木(web)
利根沼田森林管理署	森林技術普及専門官	中村 聖子	群馬(web)
中越森林管理署	次長	丹治 利文	福島(web)
	総括森林整備官	近江 隆昭	福島(web)
	森林整備官	宮嶋 沙織	福島(web)
	主事	早川 愛理	福島(web)
栃木県 環境森林部自然環境課	課長補佐	丸山 哲也	栃木(web)
	技師	横山 実咲	栃木(web)
県西環境森林事務所環境部環境企画課	副主幹	渡邊 智佳	栃木(web)
群馬県 森林環境部環境局自然環境課 尾瀬保全推進室	室長	増田 一郎	群馬
	企画推進係長	西嶋 弘満	群馬
	企画推進係 主幹	中山 寛之	群馬
地域創生部文化財保護課	主事	小嶋 圭	群馬
福島県 生活環境部自然保護課	主事	相川 直気	福島(web)
教育庁文化財課		欠席	
新潟県 県民生活・環境部環境企画課	鳥獣管理係 主査	上迫 正人	福島(web)
	教育庁文化行政課		欠席
日光市 農林課	林政係 副主幹	蜂須賀 博史	栃木(web)
	林政係 主事	小泉 好徳	栃木(web)
片品村 農林建設課	主査	須藤 幸夫	群馬
南会津町 農林課	農政係 主事	千本木 洋介	福島(web)
檜枝岐村 産業建設課	課長	星 公二	福島(web)
	主査	星 広大	福島(web)
魚沼市 生活環境課		欠席	
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	グループマネージャー	蓮田 進一	群馬(Web)
	課長	大江 一彦	群馬(Web)
尾瀬山小屋組合		欠席	
公益財団法人尾瀬保護財団	事務局企画課 課長	木滑 大介	群馬
	事務局企画課 主事	矢島 知佳子	群馬

【有識者】			
宇都宮大学	名誉教授	小金澤 正昭	栃木(web)
宇都宮大学	名誉教授	谷本 丈夫	栃木(web)
群馬県立自然史博物館	生物研究係 主幹	大森 威宏	群馬
広島修道大学	人間環境学部 准教授	奥田 圭	福島(web)

【事務局】			
関東地方環境事務所 国立公園課	課長	井上 綾子	埼玉(web)
	生物多様性保全企画官 国立公園保護管理企画官	村上 靖典	埼玉(web)
	公園計画専門官	新田 一仁	埼玉(web)
	所長	千田 純子	栃木(web)
日光国立公園管理事務所	国立公園保護管理企画官	鈴木 祥之	栃木(web)
	生態系保全等専門員	吉川 美紀	栃木(web)
檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官	桑原 大	福島(web)
	生態系保全等専門員	奥村 修	福島(web)
片品自然保護官事務所	自然保護官	石井 桃花	群馬
	自然保護官補佐	尾池 こず江	群馬
	生態系保全等専門員	小林 春香	群馬
株式会社テンドリル	代表取締役	淵脇 智博	栃木(web)
	取締役	宮本 留衣	福島(web)
株式会社野生動物保護管理事務所	取締役/部長	奥村 忠誠	福島(web)
	主任研究員	瀬戸 隆之	群馬
	主任研究員	後藤 拓弥	福島(web)
	研究員	中山 智絵	栃木(web)
	研究員	竹内 啓之	群馬
	研究員	吉田 真悟	栃木(web)

令和3年度 実施計画（案）

1. 現状と課題

- 日光・尾瀬地域とも、シカ生息密度は引き続き高い水準にあり、捕獲困難地域での捕獲の強化が必要。
- 日光地域では、近年GPS追跡調査が行われておらず、詳細なシカ動態が不明。
- 尾瀬地域では、優先防護エリア（特にA・Bランク）への防護柵の設置を進めているが、笠ヶ岳、燧ヶ岳、竜宮、泉水田代、見晴地区への設置が完了していない。
- シカ生息密度調査や捕獲関連データの調査状況や記録様式の一部が地域によって異なっている。

2. 重点方針

日光国立公園

- 湯元周辺、丸沼菅沼鳥獣保護区、足尾など高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。
- 夏季の定住個体を対象とした捕獲の強化。さらに効率的な捕獲手法への改善。
- GPS追跡調査による定住個体の行動特性の把握と管理方針の検討。
- 防護柵の設置が必要な具体的エリアの検討。

尾瀬国立公園

- 優先防護エリア（特にA・Bランクの湿原、高山帯）への防護柵の設置・継続。
- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（雪解けのタイミングに合わせた捕獲の前倒し、新潟県域での捕獲の実施など）。
- 移動経路上での捕獲の強化・継続（移動経路遮断柵の活用、捕獲適期、適地の精査など）。
- 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺でのシカの生息状況の把握。

その他共通事項

- 捕獲関連データの記録様式の統一化。
- 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。
- センサーカメラなどモニタリング方法・解析方法の統一化。

3. 関係機関の取組

(1) 捕獲

地域	実施場所	実施主体	手法	制度	R1 年度	R2 年度	R3 目標	本年度からの変更点・課題等（※は補足説明）
栃木県	戦場ヶ原柵内及び周辺	関東地方環境事務所	くくり罠	個体数調整	7頭	34頭	50頭	R3より囲いわなを併用予定
	奥日光	関東地方環境事務所	くくり罠	指定管理	—	16頭	50頭	
	奥日光（千手・菖蒲林道・丸山地区）	日光森林管理署	くくり罠	有害	—	39頭	実施予定（委託）	
	日光（野州原地区）	日光森林管理署	くくり罠	有害	—	—	実施予定（委託）	
	足尾（足尾町湖南国有林）	日光森林管理署	くくり罠・囲い罠	有害	6頭	0頭	実施予定（直営）	R2は囲いわなのみ実施（センサーの不調により終了）
	柳沢林道	日光森林管理署	くくり罠	有害	8頭	12頭	実施予定（直営）	
	白根山（五色沼周辺）	栃木県（林業センター）	くくり罠	有害	実施せず	実施せず	未定	
	千手ヶ原	栃木県（林業センター）	くくり罠	有害	17頭	0頭	50頭	
	奥日光（男体山、社山）	栃木県	銃器	指定管理	150頭	13頭 (12月末時点)	90頭	
	栃木県（対策対象範囲内）	栃木県登録狩猟者	くくり罠・銃器・箱罠	狩猟	1,258頭	実施中	実施予定	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。
	足尾（仁田元沢、久蔵沢、安蘇沢）	日光市	銃器	有害	29頭	—	100頭	R2は新型コロナの影響により中止
	三岳	日光市	銃器	有害	8頭	—	30頭	R2は新型コロナの影響により中止
	男体山南斜面	日光市	銃器	有害	31頭	—	100頭	R2は新型コロナの影響により中止
	市道1002号沿線	日光地域シカ対策共同体	銃器（モバイルカリング）	個体数調整	実施せず	実施せず	未定	
群馬県	沼田市、利根町、昭和村	利根沼田森林管理署	くくり罠	有害	29頭	28頭	実施予定	※対象区域内における捕獲数。沼田市・利根町・昭和村全域では、R1:60頭、R2:69頭の捕獲。
	国道401号・120号	群馬県	くくり罠・銃器	指定管理	237頭	192頭 (11月時点)	155頭	・尾瀬に隣接し、季節移動経路上にある「丸沼菅沼鳥獣保護区」を捕獲区域に追加し実施中。 ・捕獲をより一層推進するため、奥鬼怒林道に設置された移動遮断柵を活用した捕獲を試行。
	片品村	群馬県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	528頭	実施中	実施予定	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。
	片品村	片品村	くくり罠・銃器	有害	238頭	251頭	300頭	
尾瀬ヶ原・尾瀬沼	尾瀬ヶ原	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	42頭	59頭	65頭	R3は捕獲努力量を増加予定。
	尾瀬沼	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	10頭	18頭	25頭	R3は捕獲努力量を増加予定。
	大江湿原	関東地方環境事務所	くくり罠	指定管理	7頭	13頭	20頭	
福島県	南会津地方（尾瀬地域）	福島県	くくり罠・銃器	指定管理	136頭	108頭	実施予定	
	南会津地方（尾瀬地域）	福島県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	0頭	実施中	実施予定	
	南会津町全域	南会津町	くくり罠・銃器	有害	0頭	実施中	実施予定	R1:対象区域内0頭、南会津町全域110頭 R2:12/23時点で対象区域内0頭、南会津町全域140頭

※赤字は、R3年度に目標捕獲頭数が増加しているもの。

(2) 植生保護

地域	実施場所	実施主体	柵の種類	規模 (周囲長、面積)	開始 年度	R2 年度	R3 年度	本年度からの変更点・課題等	
日光	戦場ヶ原	関東地方環境事務所	ネット柵	16,961m、980ha	H13	→			
	白根山シラネアオイ群生地	栃木県	電気柵	905m、1.6ha	H5	→			
	白根山シラネアオイ群生地等	群馬県	電気柵	488m、0.4ha	H7	→			
尾瀬	A	尾瀬ヶ原（ヨツピ川南岸）	関東地方環境事務所	ネット柵	964m、3.5ha	H30	→		
		尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	関東地方環境事務所	ネット柵	890m、5.3ha	R2	→		
		■■■■■	関東地方環境事務所	ネット柵	40m×2箇所	R1	→		
		■■■■■	関東地方環境事務所	ネット柵	70m×1箇所 40m×1箇所	R2	→		
	大江湿原	会津森林管理署南会津支署	金属網	2,000m	H26	→		予算確保・活動の継続が課題。 新型コロナの影響により実施方法の検討が必要。	
			金属網	1,550m	H29	→		設置・撤去時期について、関係機関との連携が必要。 新型コロナの影響により実施方法の検討が必要。 例年のボランティアによる設置・撤去は、R2は新型コロナの影響により見合せ。	
		関東地方環境事務所	ネット柵	70m	H30	→			
	至仏山	群馬県	ネット柵	305m、0.44ha	R2	→		オヤマ沢田代に設置。	
	笠ヶ岳	—	—	—	—				
	B	尾瀬ヶ原（研究見本園）	群馬県	ネット柵	0.05ha	H25	→		R2設置箇所に含まれるため、R3以降設置しない。
		尾瀬ヶ原（研究見本園）	群馬県	ネット柵	1,125m、6.13ha	R2	→		R3に拡大を検討中。
		尾瀬ヶ原（背中アブリ田代）	群馬県	ネット柵	0.06ha	H24	→		
		尾瀬ヶ原（竜宮）	群馬県	ネット柵	0.03ha	H26	→		環境省設置箇所に含まれるため、R3以降設置しない。
		尾瀬ヶ原（竜宮）	関東地方環境事務所	ネット柵	1,247m、6.0ha	R3	→		
尾瀬ヶ原（泉水田代）		—	—	—	—				
尾瀬ヶ原（見晴）		—	—	—	—				
燧ヶ岳山頂周辺		—	—	—	—				
C	大清水湿原	片品村	金属網	644m、0.36a	H30	→			
	御池田代	檜枝岐村	ネット柵	1,093m	R2	→			
その他	シカ移動遮断柵（奥鬼怒林道）	関東地方環境事務所	ネット柵	4.5km	H20	→		R2に当柵を利用した効率的な捕獲を目的に、群馬県による指定管理捕獲場所に追加、捕獲実施。	

※赤字は、R3年度からの新規の取組。

(3) モニタリング

指標	手法	実施主体	実施場所	開始年度	R2年度	R3年度	本年度からの変更点・課題等
シカ生息密度	センサーカメラ	関東地方環境事務所	丸沼（唐沢山）	H26	■	■	
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	奥鬼怒林道	H26	■	■	
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原	H24	■	■	
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳	R2	■	■	
	センサーカメラ	中越森林管理署	東電小屋付近	H26	■	■	
	センサーカメラ	栃木県	千手ヶ原	H22	■	■	
	センサーカメラ	南会津町	駒止湿原	H27	■	■	R2より柵の効果検証にカメラトラップを実施。R3も継続予定。
	センサーカメラ	南会津町	南会津町、昭和村	R1	■	■	R2は新型コロナにより実施見送り（R3は実施予定）
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	戦場ヶ原周辺（柵内外道路）	H14	■	■	R2以降は調査回数を月2回から1回に変更。
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼	H13	■	■	
	ライトセンサス	栃木県	鬼怒沼	H10	■	■	
	ライトセンサス	栃木県	白根山	H25	■	■	
	ライトセンサス	南会津町	田島地域	H28	■	■	H28. 11月から現行ルートで実施。H24～28にも複数ルートで実施。
	糞塊密度法	栃木県	栃木県全域	H26	■	■	
	糞塊密度法	群馬県	群馬県全域	H25	■	■	
	糞塊密度法	福島県	福島県全域	R1	■	■	
	区画法	関東地方環境事務所	戦場ヶ原（柵内）	H18	■	■	R3実施予定（R2以降隔年実施）
	区画法及び定点観察	栃木県	奥日光、表日光、足尾	H7	■	■	
	シカ移動経路	GPS移動経路	関東地方環境事務所	奥日光	R3		■
GPS移動経路		関東地方環境事務所	尾瀬～越冬地	H20	■	■	
GPS移動経路		南会津町、昭和村	南会津町、昭和村	H29	■	■	R1より町内で越冬する個体の捕獲を実施。R3以降も継続予定。
植生被害	採食状況	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼、至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山、笠ヶ岳	H19	■	■	
	植生回復モニタリング	栃木県	小田代原、千手ヶ原、赤沼	H17	■	■	
	下層植生衰退度（SDR）	栃木県	栃木県全域	H29			次回実施の検討
	湿原植生モニタリング	群馬県	尾瀬ヶ原（背中アブリ田代、研究見本園、竜宮）	H24	■	■	
	簡易コドラート法	南会津町	南会津町、昭和村	R1	■	■	R2はコロナ禍により実施見送り（R3は実施予定）

※赤字は、R3年度からの新規の取組。

令和3年度実施計画 捕獲位置図

資料 1-1

- 捕獲エリア**
 - 1000頭～
 - 500頭～
 - 100頭～
 - 50頭～
 - 1頭～
 - 0頭
- GPS首輪 移動経路**
 - 尾瀬ヶ原-越冬地
 - 尾瀬沼-越冬地
 - 檜枝岐-越冬地
- 国立公園 (尾瀬+日光)**
 - 特別保護地区
 - 第1種特別地域
 - 第2種特別地域
 - 第3種特別地域

福島県登録狩猟者
狩猟
(くくり罠,銃器)

R1
0頭
R2
実施中
R3(目標)
実施予定

福島県
指定管理鳥獣捕獲等事業
(南会津地方)
(くくり罠,銃器)

R1
136頭
R2
108頭
R3(目標)
実施予定

南会津町
有害鳥獣捕獲
(くくり罠,銃器)

R1
0頭
R2
実施中
R3(目標)
実施予定

R1
238頭
R2
193頭(実施中)
R3(目標)
155頭

群馬県
指定管理鳥獣捕獲等事業
(くくり罠,銃器)

R1
実施せず
R2
実施せず
R3(目標)
未定

栃木県林業センター
有害鳥獣捕獲
(くくり罠)

狩猟
R1
1258頭
R2
実施中
R3(目標)
実施予定

栃木県登録狩猟者
狩猟
(くくり罠,銃器,箱罠)

R1
8頭
R2
実施せず
R3(目標)
30頭

日光市
有害鳥獣捕獲
(銃器)

R1
実施せず
R2
16頭
R3(目標)
50頭

環境省
指定管理鳥獣捕獲等事業
(くくり罠)

R1
31頭
R2
実施せず
R3(目標)
100頭

日光市
有害鳥獣捕獲
(銃器)

R1
7頭
R2
34頭
R3(目標)
50頭

栃木県
指定管理鳥獣捕獲等事業
(銃器)

R1
150頭
R2
13頭(実施中)
R3(目標)
90頭

日光森林管理署
有害鳥獣捕獲
(くくり罠,罠)

R1
6頭
R2
0頭
R3(目標)
実施予定

日光市
有害鳥獣捕獲
(銃器)

R1
29頭
R2
実施せず
R3(目標)
100頭

日光森林管理署
有害鳥獣捕獲
(銃器)

R1
29頭
R2
28頭
R3(目標)
実施予定

利根沼田森林管理署
有害鳥獣捕獲
(くくり罠)

R1
29頭
R2
28頭
R3(目標)
実施予定

環境省
指定管理鳥獣捕獲等事業
(くくり罠,銃器)

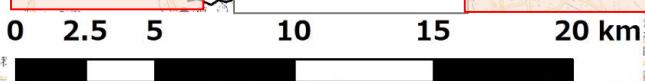
尾瀬ヶ原 R1 42頭 R2 59頭 R3(目標) 65頭	尾瀬沼 R1 10頭 R2 18頭 R3(目標) 25頭	大江湿原 R1 7頭 R2 13頭 R3(目標) 20頭
---	--	--

片品村 有害鳥獣捕獲 (くくり罠,銃器) 群馬県登録狩猟者 狩猟 (くくり罠,銃器)	有害 R1 238頭 R2 251頭 R3(目標) 300頭	狩猟 R1 528頭 R2 実施中 R3(目標) 実施予定
---	--	---

日光森林管理署 有害鳥獣捕獲 (くくり罠) 栃木県林業センター 有害鳥獣捕獲 (くくり罠) 日光地域シカ対策共同体 個体数調整 (銃器)	日光森林管理署 R1 8頭 R2 51頭 R3(目標) 実施予定	林業センター R1 17頭 R1 0頭 R3(目標) 50頭
--	--	--

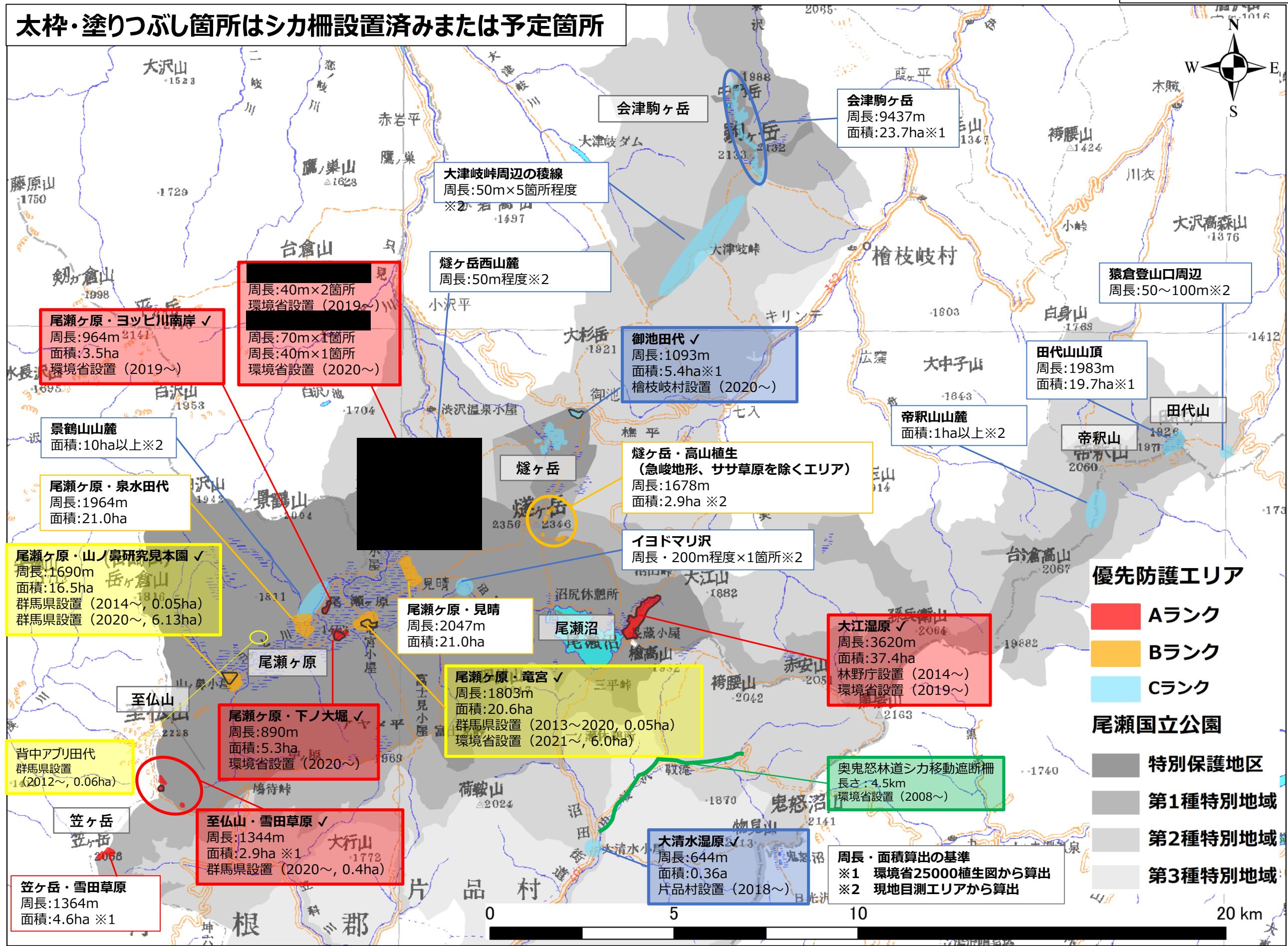
利根沼田森林管理署
有害鳥獣捕獲
(くくり罠)

R1
29頭
R2
28頭
R3(目標)
実施予定



令和3年度実施計画 優先防護エリア及び防護柵位置図

太枠・塗りつぶし箇所はシカ柵設置済みまたは予定箇所



尾瀬ヶ原・ヨツピ川南岸 ✓
 周長:964m
 面積:3.5ha
 環境省設置 (2019~)

周長:40m×2箇所
 環境省設置 (2019~)
 周長:70m×1箇所
 周長:40m×1箇所
 環境省設置 (2020~)

景鶴山山麓
 面積:10ha以上※2

尾瀬ヶ原・泉水田代
 周長:1964m
 面積:21.0ha

尾瀬ヶ原・山ノ鼻研究見本園 ✓
 周長:1690m
 面積:16.5ha
 群馬県設置 (2014~, 0.05ha)
 群馬県設置 (2020~, 6.13ha)

尾瀬ヶ原・見晴
 周長:2047m
 面積:21.0ha

尾瀬ヶ原・竜宮 ✓
 周長:1803m
 面積:20.6ha
 群馬県設置 (2013~2020, 0.05ha)
 環境省設置 (2021~, 6.0ha)

背中アプリ田代
 群馬県設置
 (2012~, 0.06ha)

尾瀬ヶ原・下ノ大堀 ✓
 周長:890m
 面積:5.3ha
 環境省設置 (2020~)

至仏山・雪田草原 ✓
 周長:1344m
 面積:2.9ha ※1
 群馬県設置 (2020~, 0.4ha)

笠ヶ岳・雪田草原
 周長:1364m
 面積:4.6ha ※1

会津駒ヶ岳

会津駒ヶ岳
 周長:9437m
 面積:23.7ha※1

大津岐峠周辺の稜線
 周長:50m×5箇所程度
 ※2

燧ヶ岳西山麓
 周長:50m程度※2

御池田代 ✓
 周長:1093m
 面積:5.4ha※1
 檜枝岐村設置 (2020~)

猿倉登山口周辺
 周長:50~100m※2

田代山山頂
 周長:1983m
 面積:19.7ha※1

帝釈山山麓
 面積:1ha以上※2

燧ヶ岳・高山植生
 (急峻地形、ササ草原を除くエリア)
 周長:1678m
 面積:2.9ha ※2

イヨドマリ沢
 周長・200m程度×1箇所※2

大江温泉 ✓
 周長:3620m
 面積:37.4ha
 林野庁設置 (2014~)
 環境省設置 (2019~)

優先防護エリア

- Aランク
- Bランク
- Cランク

尾瀬国立公園

- 特別保護地区
- 第1種特別地域
- 第2種特別地域
- 第3種特別地域

奥鬼怒林道シカ移動遮断柵
 長さ:4.5km
 環境省設置 (2008~)

大清水温泉 ✓
 周長:644m
 面積:0.36a
 片品村設置 (2018~)

周長・面積算出の基準
 ※1 環境省25000植生図から算出
 ※2 現地目測エリアから算出

令和2年度 環境省新規実施対策

(1) 捕獲

<尾瀬>

- ・ 捕獲時期：5月上旬～10月
- ・ **尾瀬沼の捕獲エリアを拡大** (下図)

※過去最高の捕獲数

R2捕獲頭数 90頭 (R1: 59頭)

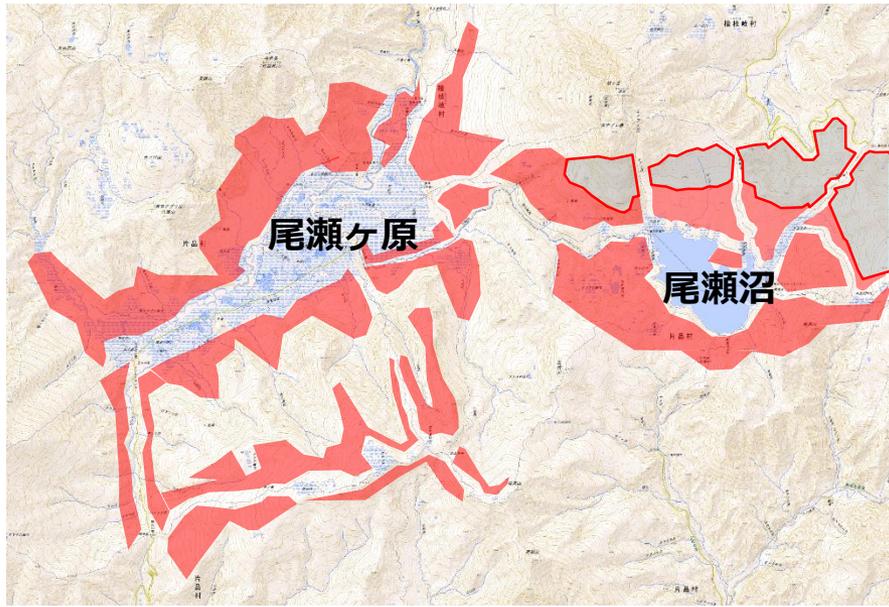
(尾瀬ヶ原59頭、尾瀬沼18頭、大江湿原13頭)

<日光 (柵周辺、湯元、三岳)>

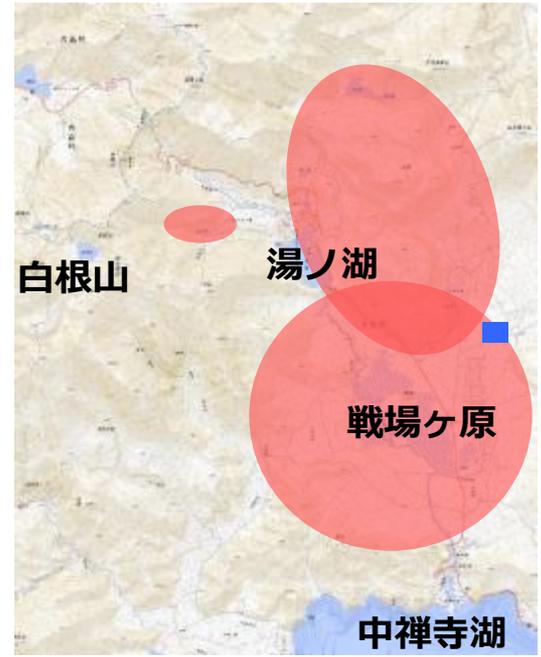
- ・ **春季～秋季にくくりわな捕獲**を試験実施
- ・ **冬季に囲いわな捕獲**を試験実施

R2捕獲頭数 50頭 (R1: 7頭/柵周辺のみ)

(戦場ヶ原シカ柵周辺34頭、湯元1頭、三岳15頭)



■ R2捕獲拡大エリア



(2) 植生保護

<尾瀬>

- ・ R1 ヨツピ川南岸、XXXXXXXXXXにシカ柵を設置
- ・ R2 新たに下ノ大堀、XXXXXXXXXXにシカ柵を設置

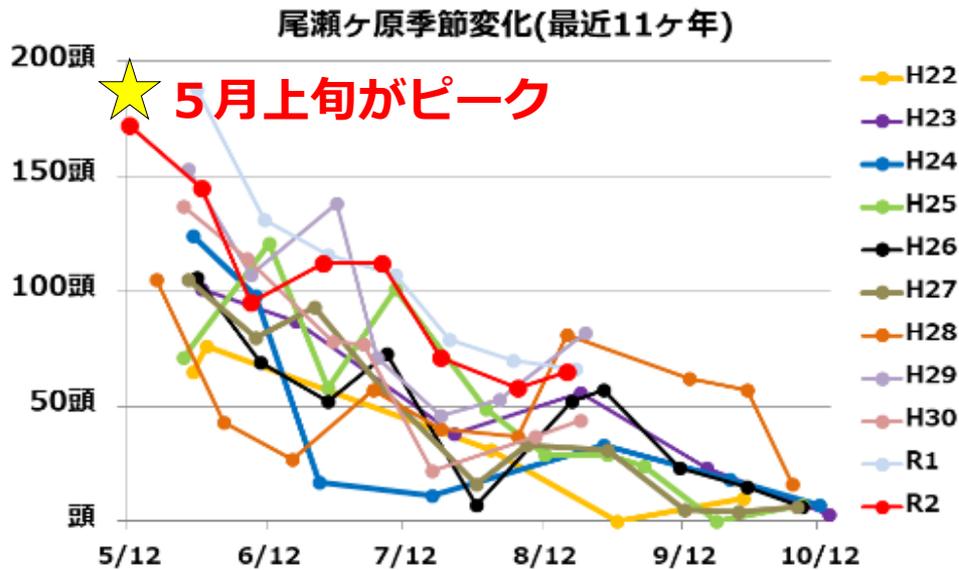


下ノ大堀（890m、5.3ha）のシカ柵

(3) モニタリング

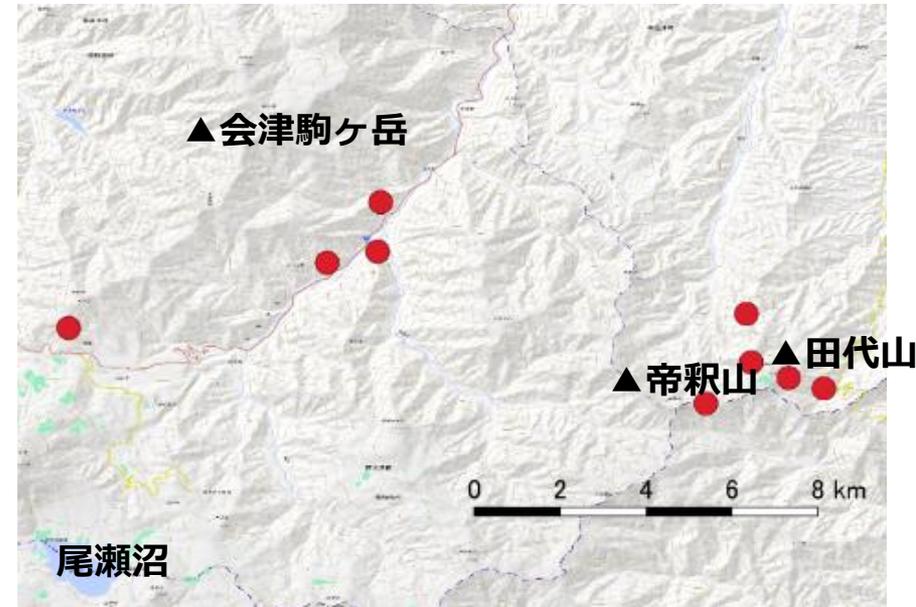
<尾瀬>

- ・尾瀬ヶ原でのライトセンサスを、**5月上旬から開始**



↑尾瀬ヶ原の確認頭数の季節変化 (ライトセンサス)

- ・**田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳に新たにセンサーカメラを設置**



↑センサーカメラ設置位置図

(4) その他

- ・**生態系保全等専門員 (シカ専門員)** を檜枝岐、片品、日光事務所に各1名配置
(1名増員)
- ・尾瀬・奥日光地域 (本協議会の対象地域) の**シカ個体数推定を実施中**

日光地区でのシカ捕獲状況など

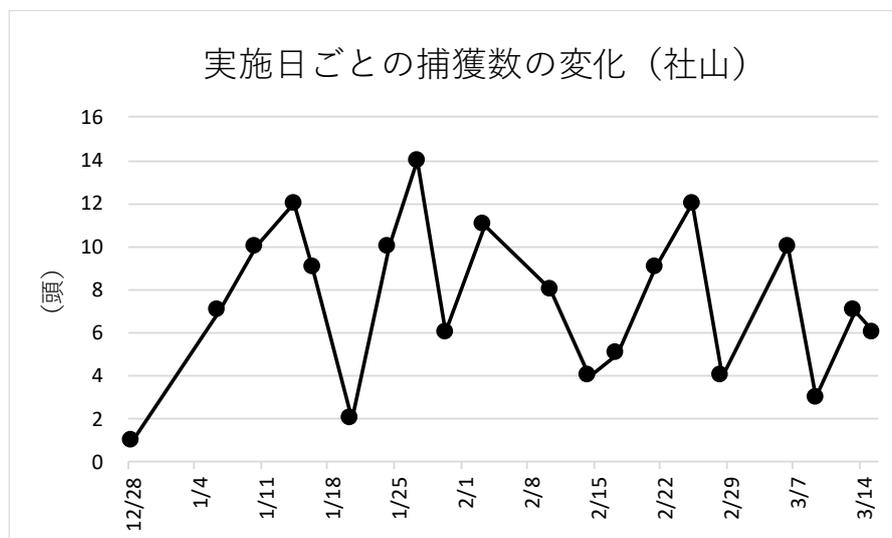


丸山哲也(栃木県自然環境課)

越冬地である社山での捕獲(R1～)



R1 捕獲実績



総捕獲数: 150頭
捕獲効率: 2.8頭／人・日

忍び猟の射手の条件

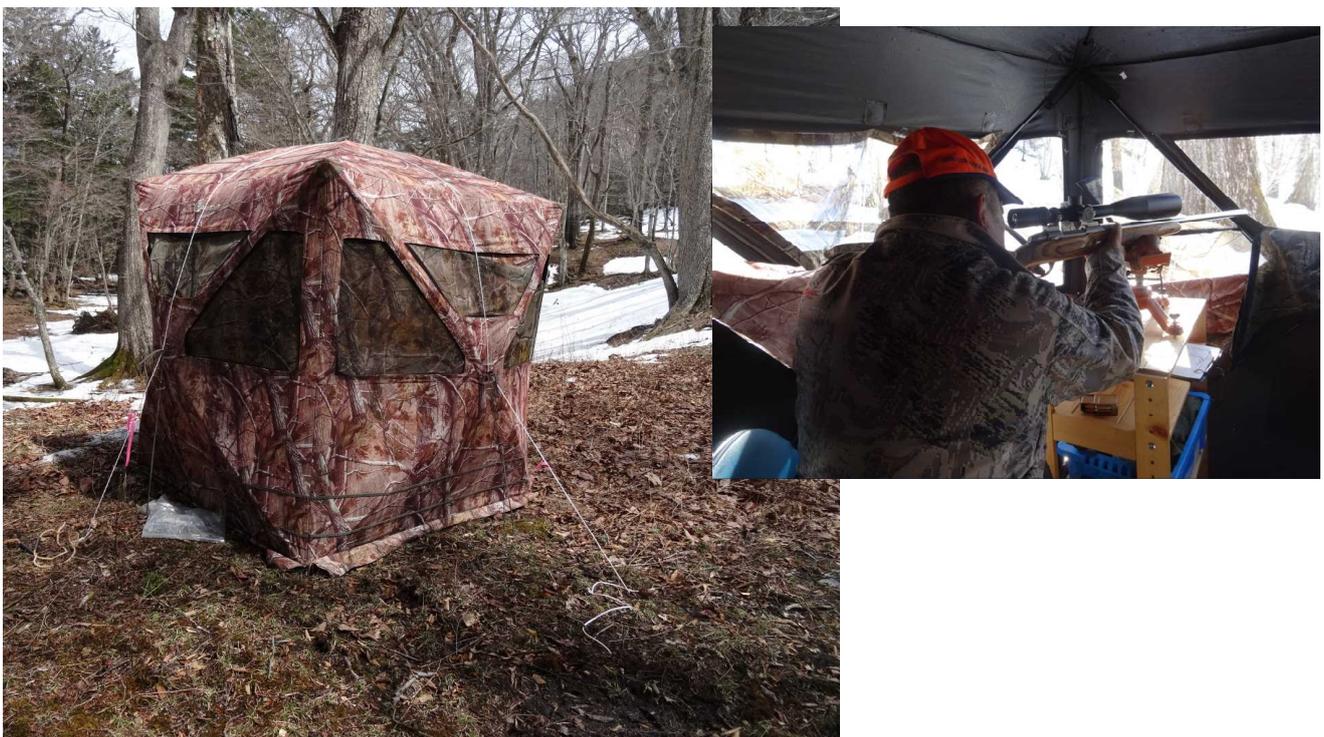
- 認定鳥獣捕獲等事業者の従事者
 - 指定管理鳥獣捕獲等事業として実施
 - 日光地区では5名のみ
- 200mを超える遠射を正確にできる者

結果的にはモバイルリングで
お世話になった3名に

季節移動個体の待ち受け射撃



待ち受け狙撃を計画(H29)

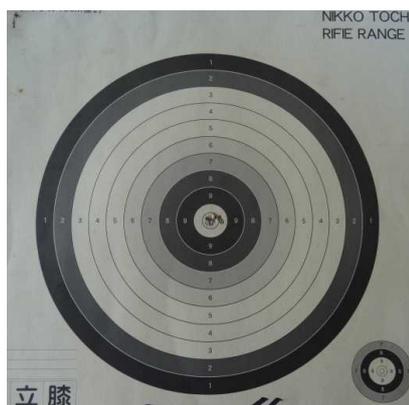


射手の公募

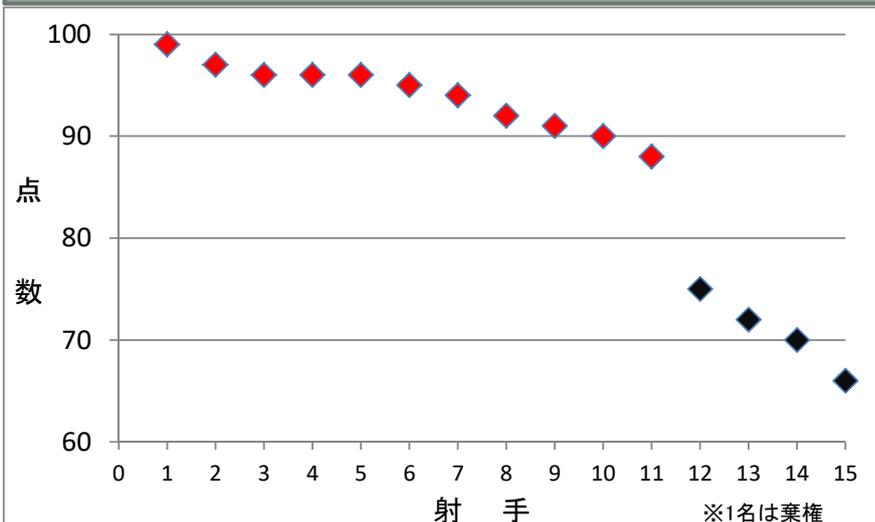
- ・ 猟友会日光支部に所属し、日光市のシカ・イノシシ捕獲従事者証を有する者
- ・ ライフル銃を使用し、装弾は、発砲音と命中精度を考慮し6mmもしくは7.62mm(308や30-06等)とする(マグナム弾は不可)



射撃検定の実施



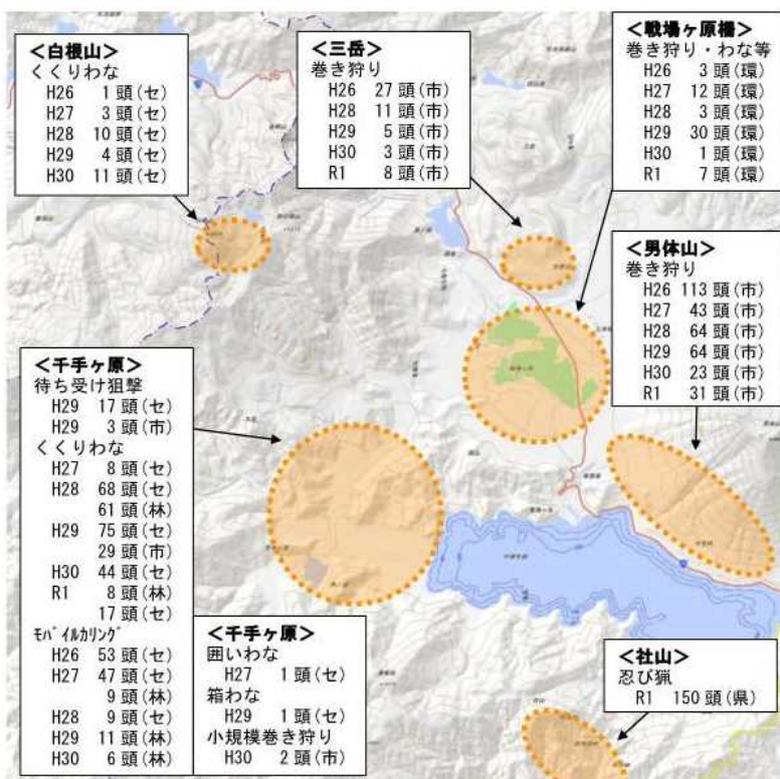
100mで10発発射



射手公募と射撃検定の効果

- 意欲ある射手の参加
- 従事者選択基準の明確化
- 射撃技術向上の意識づけ

各機関による捕獲の進行(H26～)



環: 環境省

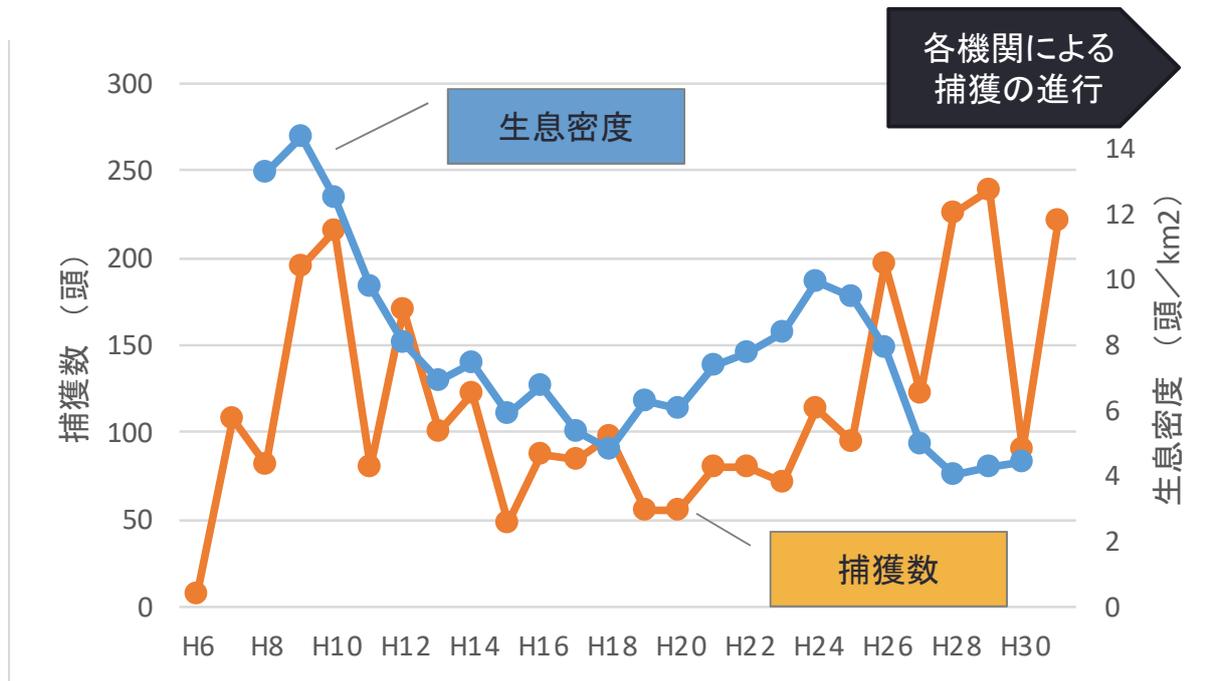
林: 森林管理署

市: 日光市

県: 県実施指定管理鳥獣捕獲等事業

セ: 県林業センター

捕獲数と生息密度の推移(奥日光)

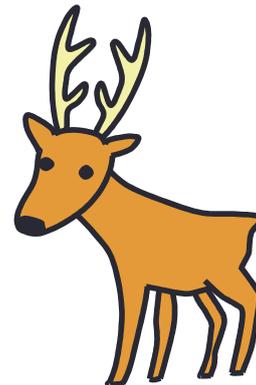
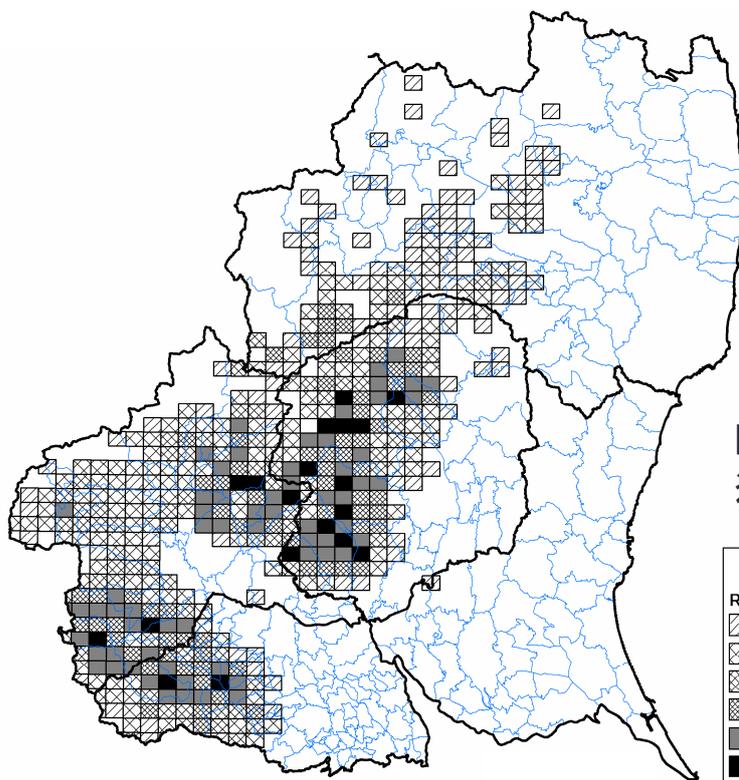


※生息密度は区画法により、3年間の移動平均値

指定管理鳥獣捕獲等事業(県実施)

R2実施	R3予定
<ul style="list-style-type: none"> ・忍び猟(社山) 	<ul style="list-style-type: none"> ・忍び猟(社山) ・ICTを活用した捕獲(検討中)

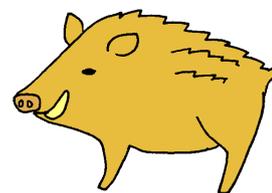
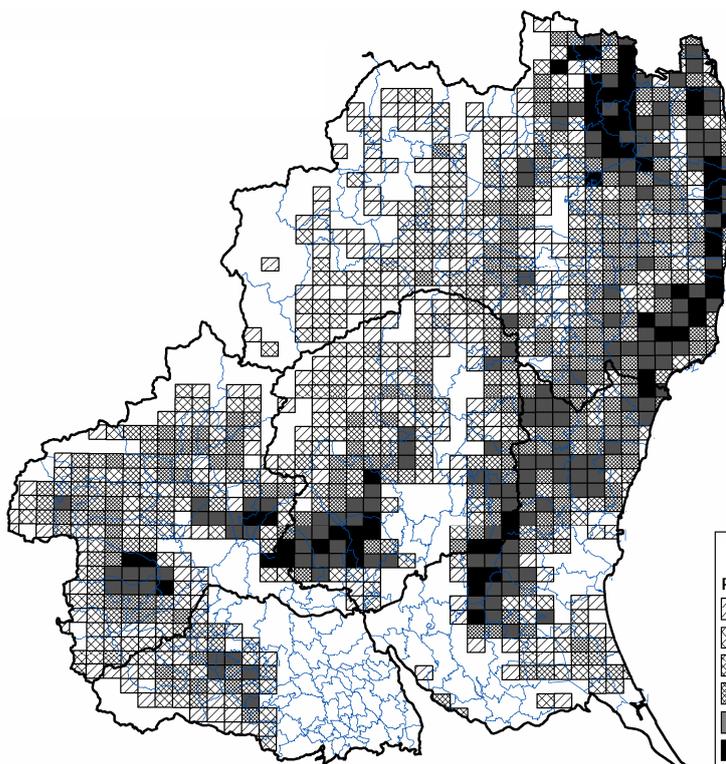
広域捕獲分布図の作成



R1
狩猟・有害・指定事業計

凡 例	
R1狩猟・有害等	
1~4頭	Diagonal hatching (top-left to bottom-right)
5~24頭	Cross-hatching
25~49頭	Diagonal hatching (bottom-left to top-right)
50~99頭	Grid hatching
100~199頭	Dark gray shading
200頭以上	Solid black shading

広域捕獲分布図の作成



R1
狩猟・有害・指定事業計

凡 例	
R1狩猟・有害等	
1~4頭	Diagonal hatching (top-left to bottom-right)
5~24頭	Cross-hatching
25~49頭	Diagonal hatching (bottom-left to top-right)
50~99頭	Grid hatching
100~199頭	Dark gray shading
200頭以上	Solid black shading

栃木会場グループ

テーマ①： みんなで手作りGIS 第二弾

これまでの協議会で聞こえてきたこと

柵について：

日光地域はシカ対策の歴史が長い。

様々な柵を様々な機関で設置してきた。

日光地域での柵の情報が集約されていない。



日光地域の柵の設置情報を集約したい！

今後の植生保全対策の際に参考になる地図を作りたい！

今後の植生保全対策の際に参考になる地図を作りたい！

Step1：手作り地図を作ろう！

事前に提供していただいた情報をまとめたので、改めて眺めてみましょう。

共有してほしいこと：

他に、設置した機関が分からないような柵はありませんか。

Step2：今後植生保護柵が必要な場所を考えよう！

Step1で作った地図を眺めながら、来年度以降に植生保護柵が必要となる候補地を探したいと思います。

自分の所属機関が実現するかどうかは別にして、ここは必要かもしれないと思う地域をピックアップしていきましょう！

「希少な植生、シカの採食に脆弱な植生はどこ？」、「柵の設置は急いだ方がよい？」など伺っていきます。

今後、柵を設置したい地域についての相談もOK！

栃木会場グループ

テーマ②： 観光地での捕獲

湯元の現状

湯元に出没するシカ：
日中にもかかわらずシカが出没。
観光客とシカの距離が近すぎる。
シカが大きな群れを作っている。



湯元での危機感を共有したい！

観光地での捕獲に関する障壁を共有したい！

湯元での危機感を共有したい！

Step1：湯元の現状共有

湯元でのシカの様子を動画と写真で紹介します。

Step2：湯元で行った捕獲について共有

環境省事業で行った湯元での捕獲について共有します。
(調整事項、捕獲場所、捕獲手法など)

Step3：観光地での捕獲における障壁

観光客や地元住民など人が多い地域での捕獲だったので、人目を避けたり厳重な安全確保等、様々な障壁がありました。観光地での捕獲をどのように進めていくか、みなさんのご意見をお聞かせください(捕獲手法、捕獲時期、調整事項など)。

群馬会場グループ

テーマ： 捕獲についてたっぷり語ろう

これまでの協議会で聞こえてきたこと

捕獲について：

- ・群馬県は尾瀬のシカの季節移動経路の全ての要素を含む。
- ・それらに対し関係機関が協力して捕獲にあたっており、捕獲数は概ね増加傾向である。
- ・にもかかわらず、シカを十分減らせているとは言い難い。



シカの捕獲数をさらに飛躍的に(2~3倍に)
伸ばしていくことを目指したい！！

今回のグループワークでは、現状と課題を共有しましょう！

ケース1: 夏季生息地での捕獲

- ・尾瀬ヶ原や尾瀬沼での捕獲について
- ⇒WMO（発表+相談で15分）

ケース2: 季節移動経路での捕獲

- ・奥鬼怒林道や国道401号、国道120号での捕獲について
- ⇒①群馬県発表、②片品村発表、③合わせて相談
⇒計30分

ケース3: 越冬地や分布拡大地域での捕獲

- ・沼田市、昭和村での捕獲について
- ⇒利根沼田森林管理署（発表+相談で15分）



尾瀬ヶ原、尾瀬沼での捕獲

株式会社 野生動物保護管理事務所

本社調査事業部 瀬戸隆之



- 1990年代半ばからシカの生息が確認されるようになり、生態系への不可逆的な影響が懸念

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針

＜尾瀬における最終目標＞

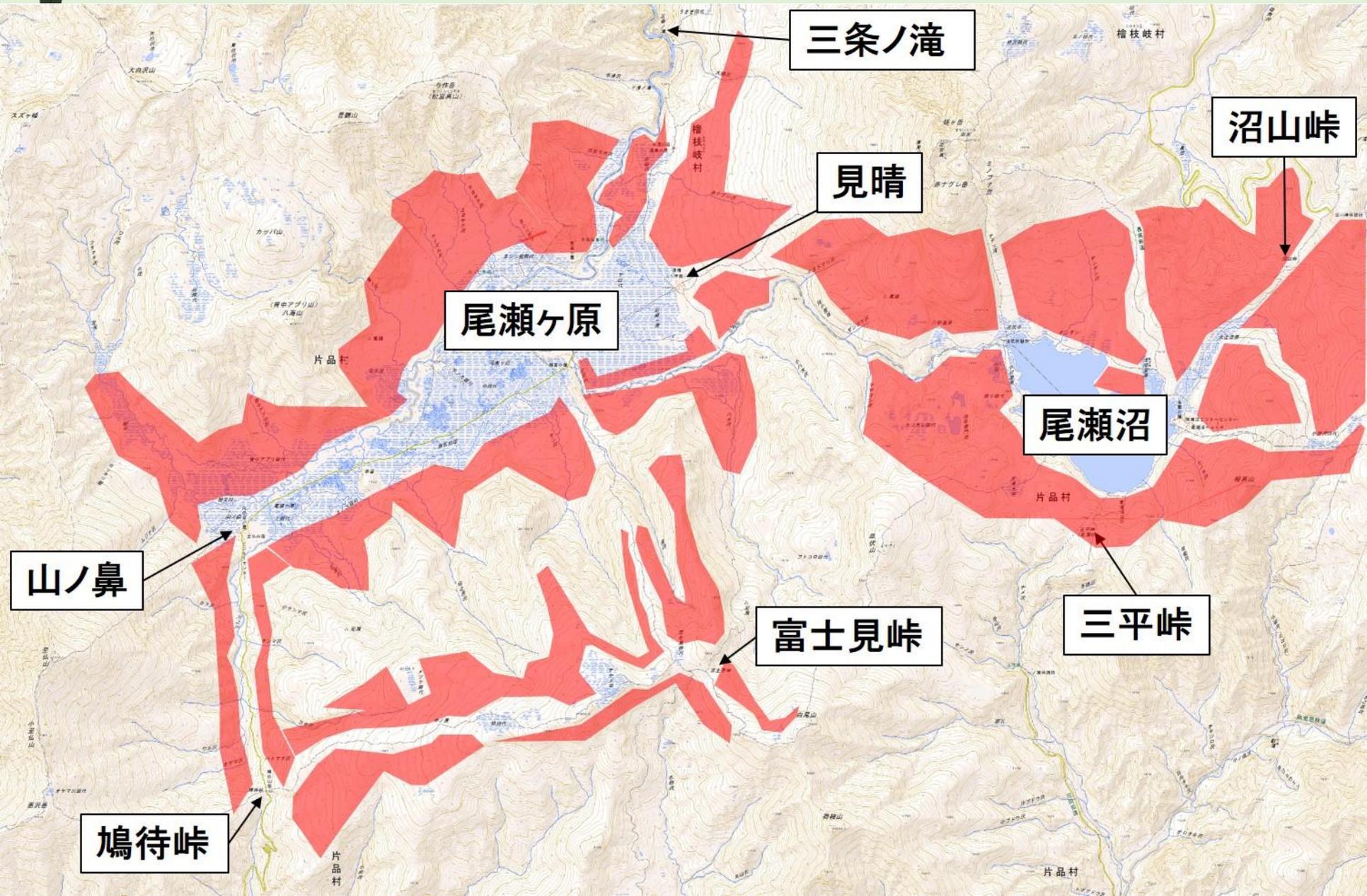
- ・尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持する。

＜尾瀬における当面（5年間）の目標＞

- ・湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減させる。



尾瀬周辺の捕獲地域





銃器捕獲：踏査射撃、待機射撃

- 単独で実施
- 自然に溶け込む服装
- シカの行動を予測し、気づかれないように近づいてまたは待機して銃で捕獲する
- 樹上で待機することもある
- 朝夕に捕獲機会が多い





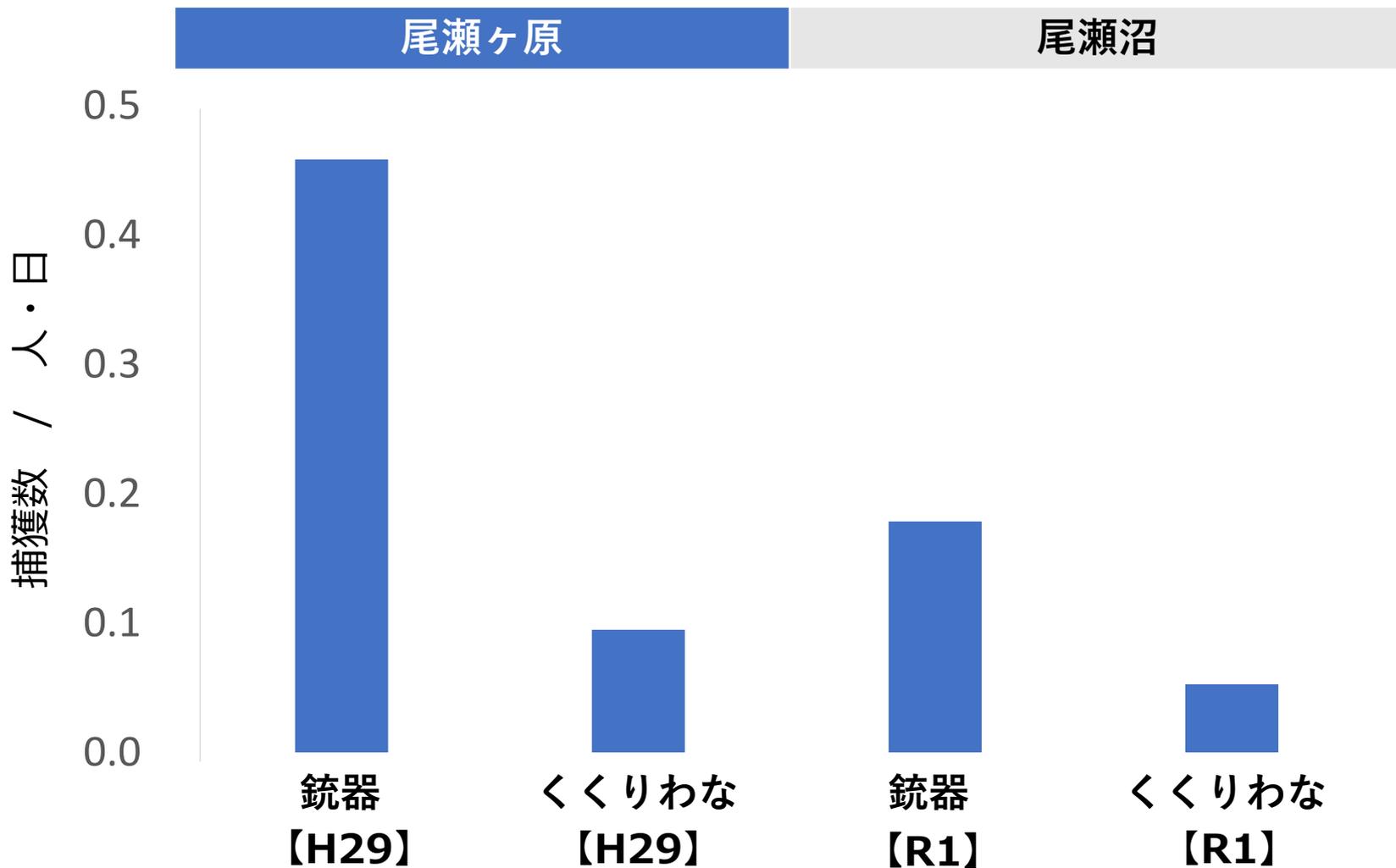
わな捕獲：足くくりわな

- シカがわなを踏むとワイヤーが締まる仕組み
- シカの痕跡を頼りに約30台を設置
- 捕獲された個体は電殺機を用いて止め刺しを行う
- 尾瀬ヶ原で設置した くくりわなは、増水でしばしば水没した…





銃器とくくりわなの捕獲効率

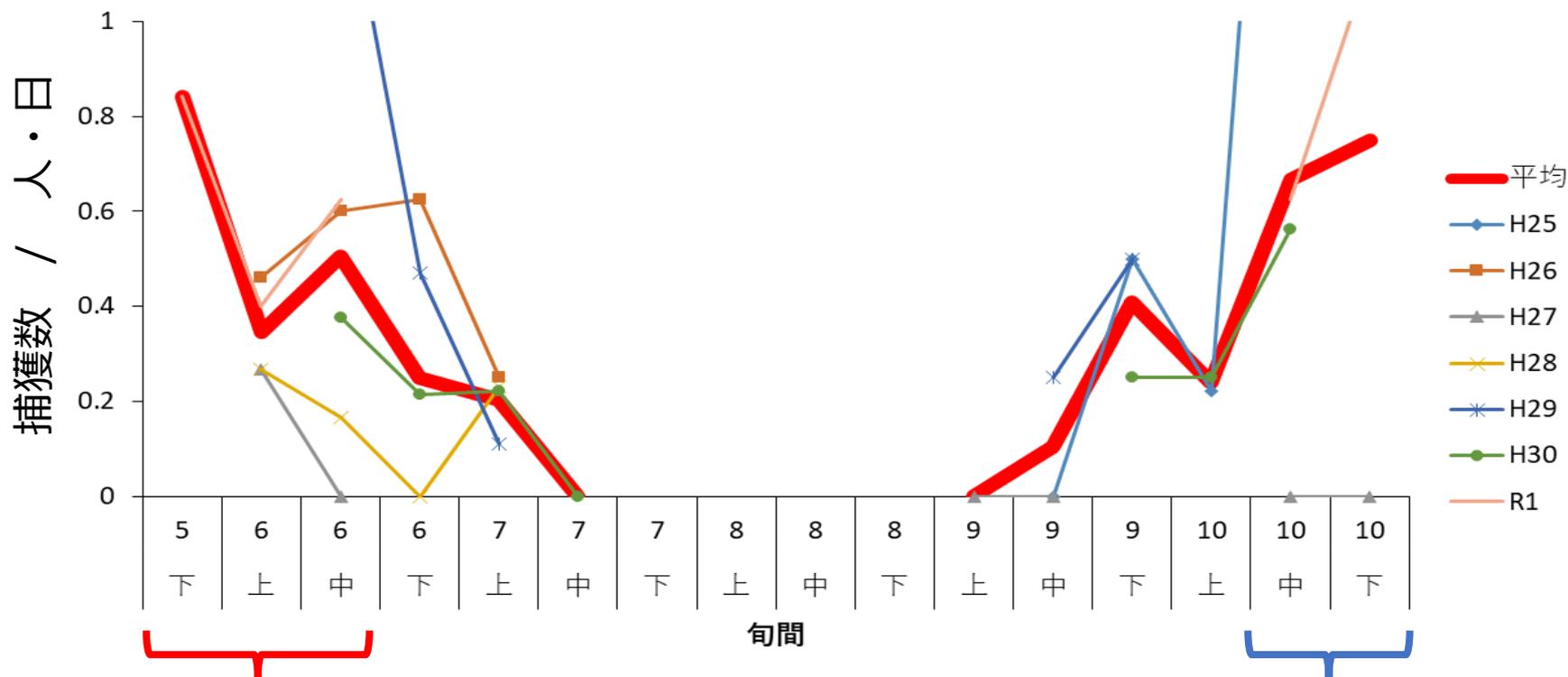




銃器の捕獲効率が高い時期

メス中心の捕獲

オス中心の捕獲

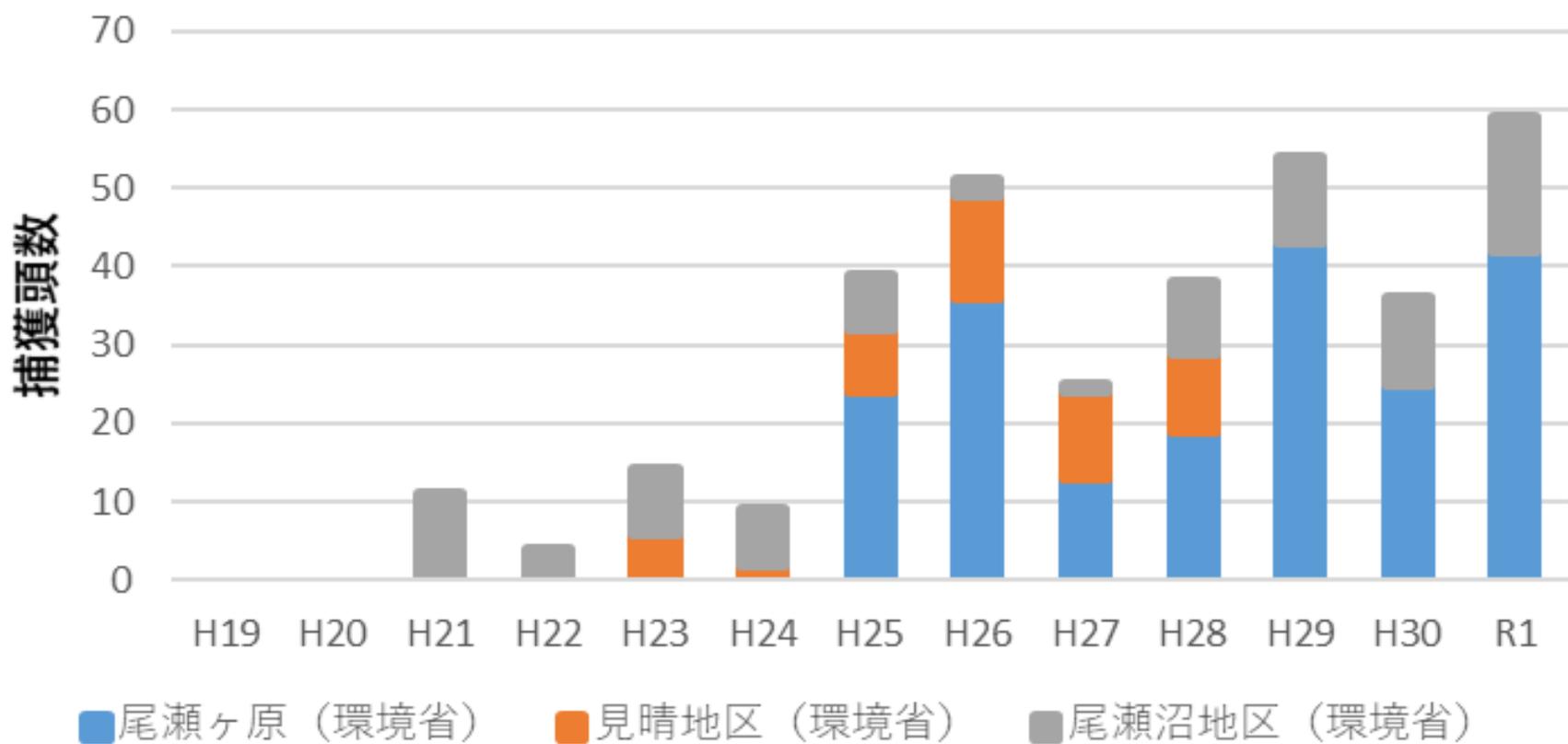


最も重要

オスの捕獲に有効



尾瀬での捕獲数の変遷

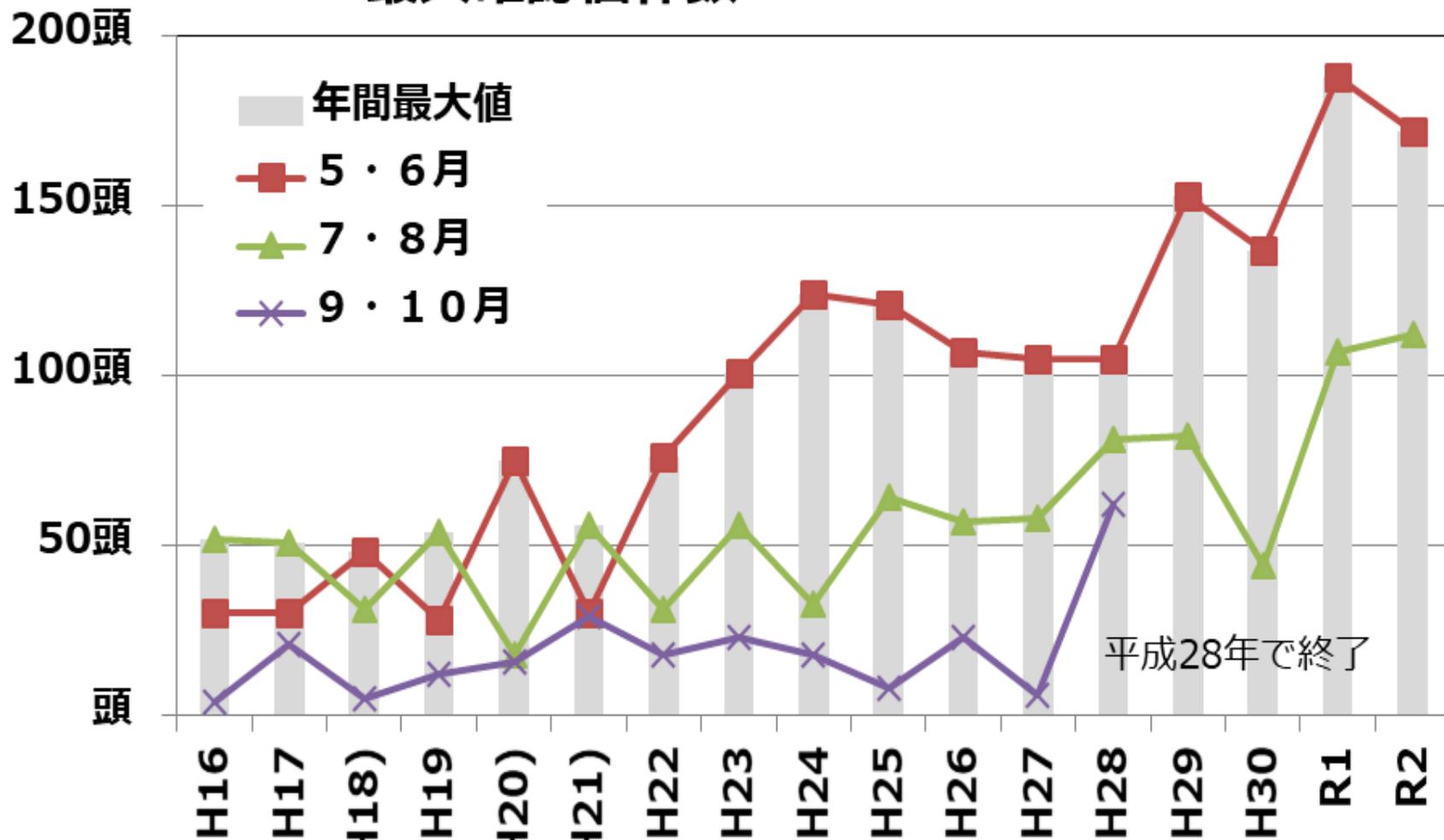


※R2ではWMO業務のみで71頭を捕獲



尾瀬ヶ原の湿原に出るシカの数 (ライトセンサス結果)

最大確認個体数



平成28年で終了

※ () 内は5月に調査を実施していない年

さらに捕獲数を増やすには

捕獲対象地域を広げる

- 群馬県域+福島県域+新潟県域+河畔林周辺+湿原

捕獲効率の高い方法に集中する

- くくりわな << 銃器捕獲

射手の質を高め、人数を増やす

- 少数の散弾銃射手 ⇒ 多数のライフル銃射手

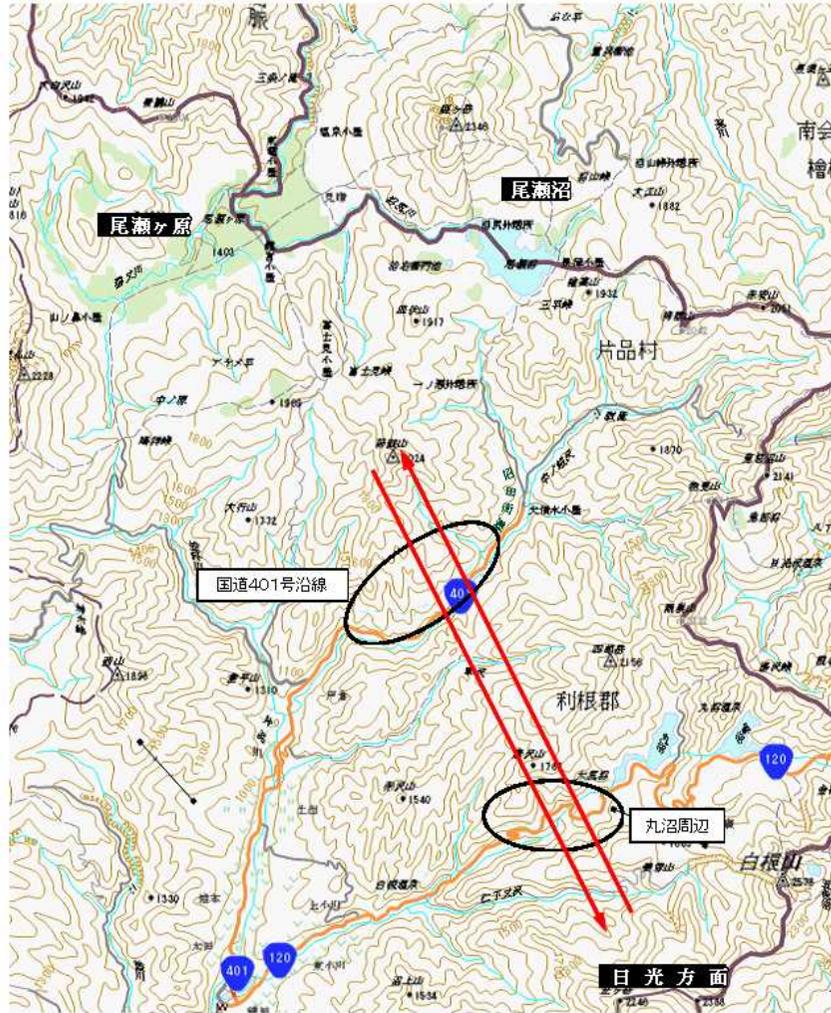
捕獲可能な時間帯を広げる

- 日中+朝夕+薄明薄暮帯+夜間

令和2年度 群馬県による尾瀬地域のニホンジカ捕獲について

1. 捕獲の状況（季節移動経路上での捕獲事業）

尾瀬シカ対策実施位置図



年度	春期(4/30~6/1)			計	秋期(10/10~12/22)			計	3月		計	合計
	国道401号	丸沼地区			国道401号	丸沼地区			国道401号	丸沼地区		
平成25年度	29	44	73		53	22	75					148
平成26年度	18	133	151		20	34	54					205
平成27年度	4	31	35		35	11	46					81
平成28年度	0	75	75		30	28	58					133
平成29年度	0	102	102		43	15	58					160
平成30年度	2	8	10		43	45	88		0	33	33	131
令和元年度	133	0	133		0	75	75		0	29	29	237
令和2年度	38	60	98		43	51	94		0		0	192

- (1) 平成25～27年度
 - ・「生物多様性保全推進支援事業」（交付金）を活用し、「群馬県尾瀬地域生物多様性協議会」が実施。
 - ・捕獲業務受託者は、群馬県猟友会利根沼田猟友会片品支部。
- (2) 平成28年度（春捕獲）
 - ・群馬県が負担金を支出し、「群馬県尾瀬シカ対策協議会」が実施。
 - ・捕獲業務受託者は、群馬県猟友会利根沼田猟友会片品支部。
- (3) 平成28年度（秋捕獲）～現在
 - ・「指定管理鳥獣捕獲等事業」（交付金）を活用し、群馬県が実施主体となり実施。
 - ・捕獲業務受託者は、群馬県猟友会（捕獲作業は、利根沼田猟友会片品支部）。

2. 令和2年度 捕獲の結果

- 令和元年度末と令和2年度初めにおいて、連続した契約を締結し、3月～5月の春捕獲作業が途切れないように実施した。
- 移動経路上での捕獲であり、通過のタイミングを逃すと獲り逃がしてしまうため、GPS移動状況調査の情報を活用し捕獲を実施した。
- 春捕獲は、越冬地から尾瀬に移動してくる個体の捕獲のため、尾瀬を守る視点として重要視した。
- 捕獲と合わせて、自動撮影カメラによる調査を実施した。撮影頻度や通過地点の状況などを観察した。

3. 課題等

- 移動する個体の捕獲であり、通過時期や通過ポイント把握など、地形を知り尽くした地元の熟練捕獲従事者に頼らざるを得ない。
- 移動個体を可能なかぎり捕獲することから、実績において契約捕獲頭数を超えることがあり、変更契約に対応するための予算の調整に苦慮している。
- 捕獲従事者の、確保や育成が必要である。

4. 令和3年度への展望

- 年度末と年度初めにおいて、連続した契約を締結し、3月～5月の春捕獲作業が途切れないように実施。
- 移動経路上での捕獲であり、通過のタイミングを逃すと獲り逃がしてしまうため、関係者が連携してGPS移動状況調査の情報を活用し捕獲を実施。
- 春捕獲は、越冬地から尾瀬に移動してくる個体の捕獲のため、尾瀬を守る視点として重要視。
- 捕獲従事者の、確保や育成、拡大。

ニホンジカ捕獲作業の実例（利根沼田森林管理署）

1 令和2年度 利根沼田森林管理署における有害鳥獣（ニホンジカ）捕獲の概要

捕獲実績【くくりわな猟】

実施期間	実行	捕獲頭数			備考
		オス	メス	計	
6月1日~6月19日	職員実行	9	6	15	昭和村
10月5日~10月23日	職員実行	8	8	16	昭和村
10月9日~10月31日	委託事業	23	15	38	沼田市（誘引あり）
合計		40	29	69	

実施箇所位置図



2 課題等

- ・職員実行は、春、秋のそれぞれ3週間、交代とはいえ見回りに半日かかることは職員の負担になるため、見回りが不要なICT機器等の早急な定着化が必要である。
- ・委託でも毎日2人での見回りは人件費が増えるため、長期間の捕獲事業の実施においては経費の確保が必要である。
- ・委託では成獣オスの捕獲が目立つことから、拡大の最前線地域であり、今後生息数の増加がさらに進むことが予想される。
- ・誘引捕獲では優位なオスが餌場を独占し、メスや幼獣が排斥される傾向があり、個体数調整に有効な成獣メスの捕獲方法を検討する必要がある。

3 令和3年度について

- ・引き続き令和3年度も同規模で実施する予定。



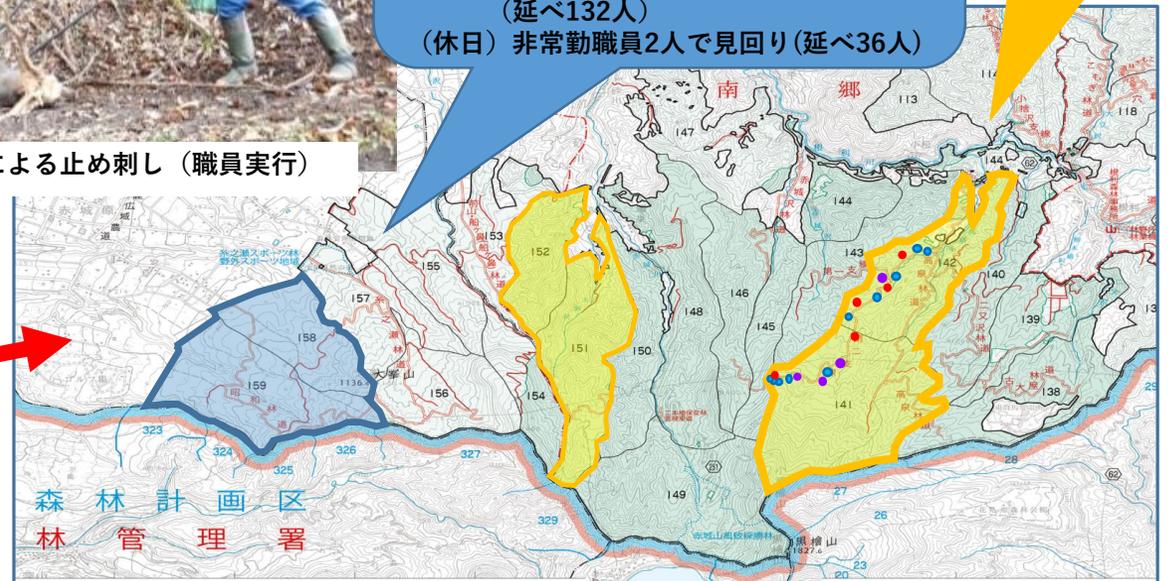
電殺器による止め刺し（職員実行）

職員実行【くくりわな猟】

- ・実施箇所面積：435ha
- ・わな設置数：100基
- ・捕獲目標頭数：47頭
- ・わな見回り：
 - （平日）職員3~4人一組で毎日見回り（延べ132人）
 - （休日）非常勤職員2人で見回り（延べ36人）

委託事業【くくりわな猟・誘引あり】

- ・実施箇所面積：979ha
- ・わな設置数：50基
- ・捕獲目標頭数：30頭
- ・わな見回り：2人一組で毎日見回り
- ・誘引方法：小林式
- ・誘引資材：ヘイキューブ・醤油



福島会場グループ

テーマ：被害軽減のために捕獲数を増やす
人員、予算に応じた
捕獲場所の拡大、効率的な対策の検討

これまでの協議会で聞こえてきたこと

捕獲とモニタリングについて：

- ・シカの捕獲のための人員や予算が限られる。
- ・福島県域はシカのGPS首輪での季節移動経路が未解明。
- ・モニタリング調査は、会津駒ヶ岳・田代山のカメラ調査（環境省）、糞塊密度調査（福島県）の実施が始まった。

モニタリング結果を活用し、
限られた人員や予算で
シカの効率的な対策を検討したい！

今回のグループワークでは、現状と課題を共有しましょう！

○被害軽減のために捕獲数を増やす

トピック1: 尾瀬ヶ原の捕獲場所拡大、対策に関して

- ・捕獲場所拡大(新潟県域)
 - ・溪畔林(福島県域)の現状
- 
- ・新潟県域での捕獲、溪畔林での対策に関して意見交換

トピック2: 南会津地域の捕獲とモニタリングに関して

- ・南会津地域の捕獲とモニタリング結果の現状
 - ①糞塊密度調査結果
 - ②自動撮影カメラの設置状況
 - ③シカ捕獲の実施場所
- ⇒5kmメッシュ単位で全体を俯瞰し、現状を把握

- 
- ・効率的な捕獲場所、目的に応じたカメラ設置方法の検討



新潟県域でのシカの生息状況

現状

- 新潟県域を集中して利用するGPS個体が確認されており、群馬・福島県域の対策だけでは湿原の影響を低減できない
- 赤田代付近はシカの撮影頭数が増加傾向で、継続した採食被害が確認されている

新潟県域での対策が必要！



溪畔林でのシカの生息状況

現状

- 湿原内にある溪畔林はシカの生息地
- 湿原へ出やすい環境を提供し、
周辺植生への影響もみられる
- 湿原周辺の森林で捕獲をしているだけでは
湿原植物への影響は低減できない

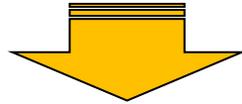
溪畔林での対策が必要！



湿原植生の影響低減のために
-さらに捕獲数を増やすには-

対象地域を広げる

- 群馬県域+福島県域
- 新潟県域+溪畔林周辺



新潟県域での捕獲、
溪畔林での対策の検討